

平成 29 年度 第 1 回 大阪府立狭山池博物館運営審議会 議事要旨

日時 : 平成 29 年 11 月 15 日 (水) 18:30~20:45  
場所 : 阪急グランドビル 26 階貸会議室 会議室 5・6  
出席者 : 委員) 岡田委員・金田委員・小山田委員・佐伯委員・栄原委員・中川委員・向山委員・  
森委員・和田委員 計 9 名  
事務局) 下村河川室長、小池河川環境課長、久保富田林土木事務所長、  
工楽館長、吉井副館長、忽那アドバイザー (江之子島文化芸術創造センター)  
関係者) 大阪狭山市教育委員会 山崎部長、大阪狭山市都市整備部 田中課長 (楠部長代理)、  
大阪狭山市政策推進部 田中部長、狭山池まつり実行委員会 鳥山補佐 (菊屋会長代理)

まとめ

- |  |
|--|
| <p>(1) 会長の選任等について<br/>・委員の互選により向山委員が会長に選任。また、向山会長は会長代理に岡田委員を指名。</p> <p>(2) 狭山池博物館の効果的、効率的な運営について<br/>・狭山池博物館の現状等について、事務局から委員へ説明した。<br/>・各委員より、意見を聞いた。<br/>・次回審議会で引き続き審議を続ける。</p> |
|--|

概要 : [以下、○委員 ●事務局]

(1) 会長の選任等について

- ・委員の互選により向山委員が会長に選任。また、向山会長は会長代理に岡田委員を指名。

(2) 狭山池博物館の効果的、効率的な運営について

- (狭山池博物館の現状等について、事務局から委員へ説明 【資料 1】)
- (各委員の主な意見)

(岡田委員)

博物館と分離されていて堤体・ダム湖が活かしていない。狭山池の現物をもっと活用し、目的利用に組み入れるべき。

状況利用の背景としても水辺は有効になるはずなので、活かしてみたいと感じている。

(金田委員)

国の史跡指定を受けたという事実を踏まえた展開とすべき。

国史跡指定の後と前では状況が異なっており、指定後は法律により史跡を保存し活用するという視点が明確に入っているということを厳密に考えなければならない。

(小山田委員)

目的利用と状況利用は上下ではなく並列の概念であると思う。

民間活用の位置づけを、民間の知恵を活用するのか、財務強化のために民間活力を利用するのか、明確にすべき。

(佐伯委員)

ブランディングを考えること。PR動画やキャラクター作成等イメージ戦略が必要。

ターゲットを府民対象にするのか、グローバルに観光客まで集めるのか明確にすべき。

(栄原委員)

史跡としての狭山池をどう保存するかが一番重要なところで、そこから物事を発想させるべき。

サイトミュージアムなのかコアミュージアムなのかということではなく、史跡狭山池の史跡のための博物館であるということは外せない。

状況利用を進めるにあたり、博物館がどうあるべきかを検討し、運営費の基盤を固めておくことが重要。

収益が上がった分、運営費を減らすという手法がよくとられるが、そのやり方では運営側としては苦しいばかり。

指定管理者制度の導入など、経営形態の変更に関わる重要事項をこの審議会でも議論することができるのか。  
→(事務局返答) 運営にかかるものに含まれるので本審議会の議論の対象になる。

(中川委員)

入館者数が多ければ良いという考えには疑問がある。入館者数の目標設定を明確に行い、そのために何をするかというようなことについて議論すべき。

城陽市では、市の施設を売却したうえで、市が施設を借用する形態をとっている事例がある。

PRが非常に重要。PR手法について議論の余地があると思う。

財務基盤強化に対しては、大阪府がある程度サポートする必要がある。運営と施設維持管理は切り離して考えるべき。

ダムカード活用などにより、子どもの来館を促し、土木に対する意識向上など、状況利用が目的利用に資するよう検討すること。

(向山委員)

満足度調査、来館者の内訳など経営分析のデータを集めること。データを揃えてターゲットを明確にしていくことが必要。

安藤建築やサクラなど「狭山池の強み」を活かした戦略立案を行うこと。

近隣大学など周辺と連携して、人を呼び込むことを検討してもいいのでは。

(森委員)

展示内容が子どもにとっては結構難しい。

外国人の来館者が多いが、英語での詳しい案内がされていない。

安藤建築を見たいということで来られている方も多いので、建築についてのPRもできるのではないかな。

展示物をわかりやすく説明する等、既存ストックの価値をいかに来館者に伝えるかを検討すること。

(和田委員)

民間が参入しやすい環境づくりも重要。

状況利用する際に一定のルールづくりが必要。

資産保有管理者が博物館を含めこのエリアをどうしたいのかを明確にし、そのビジョンを地域や、民間とともに、共有するプロセスが重要。

住民意識が非常に高い地域なので、住民の皆さんのご意見も入れながら考えていくのが良い。

「狭山池」という公共空間の活用をもっと考えるべき。